

第178回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催

5月の俳句サロン「道草」は、好天、爽やかな5月8日（水）に、いつもの「新橋ぼる一ん」で開催しました。今日は出がけのJR大船駅で、乗車早々に外国の青年に席を譲ってもらい、これに素直に応ずることが出来て、品川まで気持ちよく座らせてもらいました。たっぷりと時間に余裕がありましたので、品川駅で青年にお礼を言って下車し、品川からは山手線に乗り換えて新橋まで。スカッとした五月の午後になりました。

住田先生から先月の話の続きを伺いました。住田先生は君塚さんと一緒に、行田市の川島清實さんにお会いになられたようです。川島さんは「秋の皆さん方の吟行は、是非とも行田で実施されたら」と、強く推薦して下さいました。行田市俳句連盟も歓迎して下さいているとのことでした。住田先生、明峰さん、ここまで話を詰めていただき有難うございます。以後、この案件を推進します。

さて本日の「道草」出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、君塚明峰さん、辻柴楽さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、白然の8名です。欠席投句をして下さったのは、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、船戸清助さんの5名の方でした。いよいよ句会です。住田先生は「この時期、季語は考えておられるでしょう」と、用意された席題を提示され、席題2. のところでは「『若葉』ではなく、『若葉風』又は『若葉晴』で詠んで下さい」と、付け加えられました。皆さんが詠まれ、選考選句された天賞句並びに最多得票賞句（☆印）は次の通りです

席題1. 「新茶」

- ◎『好物の新茶ごくりと母笑顔』 柴楽
- ◎『新茶囁む鼻から抜けし香あり』 多佳
- ◎『新茶汲む自慢話を聞き流し』 傘吉
- ◎『「新茶でつ」と寿司屋の笑顔至福なり』 白然

席題2. 「若葉風」又は「若葉晴(わかばはれ)」

- ◎『奥多摩路橋を揺らして若葉風』 柴楽
- ◎『若葉風道どこまでも一直線』 明峰
- ◎『ラジオよりサティの調べ若葉風』 蒼樹
- ◎『神宮の緑を透かす若葉晴』 和感

席題3. 当季雑詠の自由題句

- ◎『たんぼぼの綿毛ふわりと旅に出る』 歌多音（投句）
- ◎『新緑やそぼ降る雨で令和あけ』 蒼風
- ◎『ざまあみろと捨て台詞して雹去りぬ』 栄女（投句）
- ◎『校門を出で葉ざくらの道となる』 多佳
- ◎『卯の花の白に急かれて手紙かく』 白然
- ◎『年ごとに若返りせむ更衣』 枯葉（投句）

(道人の一句)

若葉風平成令和吹き抜ける 住田道人

席題1. では、柴楽さんの句「好物の新茶ごくりと母笑顔」が、天賞一つを獲得しました。楽しみにしている新茶の季節、ごくりと飲んで笑顔のお母さん。作者のお母さんへの愛情が溢れでて感動しますね。最多得票賞句（☆印）は、三句になりました。多佳さんの句「新茶囁む鼻から抜けし香あり」、傘吉さんの句「新茶汲む自慢話を聞き流し」、白然の句「『新茶でつ』と寿司屋の笑顔至福なり」です。いずれも「香高い新茶の貴重さ」を的確に捉えた句で、選者はそこを評価して下さいました。

席題2. では、明峰さんの句「若葉風道どこまでも一直線」が、天賞一つを獲得しました。中七、下五の「道どこまでも一直線」と、緑を揺らせる若葉風の爽やかさを、道がどこまでも一直線であることで表現され、魅力的な句にしました。次に柴楽さんの句「奥多摩路橋を揺らせて若葉風」も、天賞一つを獲得しました。この句については「若葉風というのは、橋を揺らせるほどの強い風だろうか」との、疑問が投げかけられましたが、何せ奥多摩です。谷間の橋は、細い吊り橋かも知れませんね。そんな景を想像してみました。次に蒼樹さんの句「ラジオよりサティの調べ若葉風」が、天賞一つを獲得しました。サティの曲が、若葉風に相応しいか。そこが選者の共感と呼んだものと思われまふ。若葉風を連想するサティの曲を聴きましょう。和感さんの句「神宮の緑を透かす若葉晴」が、最多得票賞句（☆印）に選ばれました。このゴールデンウィークに神宮へは、五日間ほど通いましたが、全体的には工事の進む神宮外苑とはいえ、爽やかな青空と緑は不変。その「若葉晴」に、多くの票が集まりました。

席題3. の自由題句では、一つの句に選者の天賞選句が集まらず、四つの句に分れました。本日は全体についてもそうで、皆さんの選択が分散し、天賞二つを獲得した句はありません。歌多音さんの句「たんぼぼの綿毛ふわりと旅に出る」が、高得点の天賞を獲得しました。景は「たんぼぼの綿毛の旅立ち」です。中七の終盤から下五への「ふわりと旅に出る」が、選者の琴線を振るわたのでしょう。次に創風さんの句「新緑やそぼ降る雨で令和あけ」が、天賞一つを獲得しました。令和の幕開けです。まさにそぼ降る雨の中でしたね。次に栄女さんの句「ざまあみろと捨て台詞して雹去りぬ」が、天賞一つを獲得しました。この句、上五の「ざまあみろ」が、何に対して用意されたのでしょう。雹の降ったこと、それとも雹の去ったことでしょうか。あるいは、言葉の小気味よさが、天賞を誘ったのでしょうか。奥の深い句になりました。もう一つ、多佳さんの句「校門を出て葉ざくらの道となる」が、天賞一つを獲得しました。若き日の思い出のある桜並木。学生時代、その道に忘れられないことがおありかと。時は流れます。最多得票賞句（☆印）は、枯葉さんの句「年ごとに若返りせむ更衣」が、獲得されました。枯葉さんの心意気良し！痛快でさえあります。またお元気に投句して下さいね。お待ちしております。

今日は心に残る話をもう一つ。先月、蒼樹さんの天賞句『友逝きぬ「令和」の春を待たずして』が、ありました。蒼樹さんは、故人と親しい大学同期の仲間による「偲ぶ会」の際に、住田先生の達筆による短冊を披露しました。友人代表は、短冊を携え、名古屋の友人宅を弔問されたとのこと。ご遺族の奥様は、主人の友の温かい気持ちを喜ばれたことでしょうか。蒼樹さん、良かったですね。

二次会は、近くの「魚や一丁」で、開催しました。今日は参加人数が少ない方の「道草」でしたが、ご参加の方は元気よく、語り、笑い、今秋の吟行の話にも及びましたが、皆さんとよく話し合って実現したいと思います。皆さんどうぞよろしくお願い致します。次回は6月6日（木）、「新橋ばるーん」での開催です。皆さん、元気に新橋でお会いしましょう。

白然記